



うごく とまる

会期 2018年6月30日 [土] - 9月30日 [日]

会場 ハラ ミュージアム アーク 現代美術ギャラリー

「うごく」、「とまる」をテーマに現代美術作品を楽しく分かりやすく展示。
国内初公開！ 昨年パリで話題となった泉 太郎の意欲作をご紹介します。



【図版1】 泉 太郎「くすぐられる夢を見た気がする(雲が落ちる)」、個人蔵、パレ・ド・トーキョーでの展示風景 2017年
© Taro Izumi, courtesy of Take Ninagawa, Tokyo

20世紀なかば、廃材や身近なものを組み合わせ、そこに機械的な動きを取り入れたジャン ティンゲリーは、やがてキネティックアート（動く芸術）の巨匠と目されるようになりました。

いにしえより私たちは、光や風、水といった自然に寄り添いながら、人間の知覚のメカニズムの探求を続け、創造（想像）力を駆使して、「うごく」と、その対極にある「とまる」ことをテーマに制作を繰り返してきました。ここではティンゲリー以降のアーティストたちによるさまざまな表現を、原美術館のコレクションより選りすぐり展覧いたします。合わせて、昨年パリの個展で耳目を集めた泉 太郎の意欲作をご紹介します。

【出品作家】

泉 太郎／大平 実／草間彌生／ジャン ティンゲリー／ジョージ リッキー／ジョナサン ボロフスキー
シンディ シャーマン／東芋／ナム ジュン パイク／ピョートル コワルスキー／ヘスス ラファエル ソット
マックス ストリッヒャー／最上壽之／柳 幸典／ロバート ラウシェンバーグ など



HARA MUSEUM ARC

初公開作品

昨年パレ・ド・トーキョー（パリ）で発表された泉 太郎のインスタレーションを日本初展示

「くすぐられる夢を見た気がする」は、泉 太郎が2014年に制作を開始したシリーズ作品で、現在11点を数えます。（雲が落ちる）はそのひとつとして、昨春、ヨーロッパの現代美術の殿堂と目されるパレ・ド・トーキョー（パリ）で開催された泉 太郎の大個展で初公開され、ユーモアとアイロニーに満ちた独特の表現で注目を浴びました。同シリーズの大半は世界各国の美術館等の所蔵となりましたが、「日本に残したい」というあるコレクターの方の熱意と、作家のご協力により当館に寄託されたもので、日本では本展が初めての公開となります。

泉 太郎（いずみ たろう）

1976年奈良県出身。2002年多摩美術大学大学院美術研究科修士課程修了。東京都在住。

映像作品、ビデオインスタレーションなどを制作し、「見る/見られる」「撮る/撮られる」といった、関係性を揺さぶり現実と虚構の境界線を曖昧に攪拌してゆくような、ダイナミックな空間インスタレーションを手がける。ヨコハマトリエンナーレ（2011年）をはじめ国内外での展覧会に数多く参加し、原美術館では「ウィンター・ガーデン：日本現代美術におけるマイクロポップ的想像力の展開」（2009年）、「メルセデス・ベンツ アート・スコープ2015-17」（2017年）等に出品。2017年にパリでは国外初の大規模な個展「Pan」（パレ・ド・トーキョー）を開催。この展示は話題となり、高い評価を得た。その後、金沢21世紀美術館では個展「泉 太郎 突然の子供」（2017-18年）を開催。<http://tarozumi.com/ja/>

おしゃべりな絵画、動く彫刻、止まったままの映像…現代美術の表現はさまざまです。「うごく」、「とまる」をテーマに、感覚的に楽しめる作品をセレクトしました。



【図版2】ジャン ティンゲリー「ペリカンの卵」1958年

スイスの現代美術作家。1950年代より、動きを取り入れた美術作品（キネティックアート）を制作し、現在ではその代表的アーティストのひとりとして知られます。また廃材や日用品を組み合わせて、機械仕掛けで動く大型の作品も多く制作している作家です。

本展出品の「ペリカンの卵」（1958年）もその頃に制作された作品で、一見すると抽象的なオブジェのように見えますが、じっくり鑑賞しようと近づくとそのパーツがゆっくりと動き出し、先ほどとは異なる形となって静止します。

【図版2】ジャン ティンゲリー「ペリカンの卵」1958年
©Jean Tinguely ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2018 G1360



HARA MUSEUM ARC

【図版 3】 マックス ストリッヒャー 「Sleeping Giants (Silenus)」 2002 年



【図版 3】 マックス ストリッヒャー 「Sleeping Giants (Silenus)」 2002 年 ©Max Streicher

カナダ出身・在住の作家。風船のように空気で膨らませる巨大な立体作品を制作し、彼の作品もまたキネティックアートと称されます。展示室を占拠するように横たわる本作品も、大きく迫力がありますが、空気で膨らんでいるため軽く、揺れ動いて見えます。タイトルは「Sleeping Giants (Silenus)」＝眠る巨人（シーレーノス）。シーレーノスはローマ神話ではディオニュソスに仕える神のひとりで、いつも酔っぱらっていました。こちらの作品も酔って眠ってしまった姿をユーモラスに表現しています。今にも動きそうな存在感と、風船のような浮遊感を合わせ持つ作品です。

【図版 4】

アドリアナ ヴアレジョン 「スイミングプール」 2005 年

ブラジル出身・在住の女性作家であるヴァレジョンは、油彩から水彩まで、多岐にわたる作品を制作しています。2007年原美術館で日本初となる個展を開催するなど、世界各国で評価されている作家です。本作は近年彼女が制作の中心として手がける、水を張ったタイルの描写のシリーズ。クローズアップされたプールサイドや、水の揺らぎが何を表すのか、その作品の裏側へ誘われるような、謎めいた印象を与える一枚です。



【図版 4】 アドリアナ ヴアレジョン 「スイミングプール」 2005 年 ©Adriana Varejaõ



【図版 4】 ジャン＝ミシェル オトニエル 「Kokoro」
2009 年 撮影：白久雄一

■ハラ ミュージアム アーク（群馬）について

1988 年、原美術館の別館として群馬県渋川市に開館しました。上毛三山のひとつに数えられる榛名山麓に位置する美術館の、黒で統一されたシャープな外観は、豊かな緑に美しく映えています（設計：磯崎 新）。近年はコレクション作品を中心とした企画展示、イベント、ワークショップの他、さまざまな教育普及プログラムを行っています。2008 年には静謐な和の空間に仕上げた特別展示室「観海庵」と、専門家や愛好家に調査研究の機会を提供する「開架式収蔵庫」を新設。時代や地域の枠を越えた、多彩な美の表現を紹介しています。



HARA MUSEUM ARC

【開催概要】

展覧会名 うごくとまる
 会 期 2018年6月30日[土]—9月30日[日]
 会 場 ハラミュージアム アーク 現代美術ギャラリー
 〒377-0027 群馬県渋川市金井 2855-1 Tel: 0279-24-6585 arc@haramuseum.or.jp

開館時間 9:30 am - 4:30 pm(入館は 4:00 pm まで)

休 館 日 木曜日(8月中は無休)

入 館 料 一般 1,100 円、大高生 700 円、小中生 500 円

※「動と静」展(特別展示室 観海庵)も併せてご覧いただけます。

原美術館メンバーシップ会員無料、70歳以上半額、20名様以上団体割引。

学校団体は特別料金規定あり。詳細はお問い合わせください。

伊香保グリーン牧場とセットになったお得なチケットもあります。

(一般 1,800 円、大高生 1,500 円、中学生 1,400 円、小学生 800 円)

[群馬県在住の皆様へ] 県内の小中学生は学期中の土曜の入館無料。

ぐーちょきパスポートのご提示により5名様まで入館料各 200 円割引。

併 催 展覧会「動と静」(会場 特別展示室 観海庵)

【前期】6月30日[土]—8月23日[木] 【後期】8月24日[金]—9月30日[日]

イベント

1. Meet the Artist 泉 太郎 7月8日[日] 2:00pm- 聴講無料(要予約 入館料別)

本展出品作家の泉 太郎氏によるトークイベントを開催いたします。日本初となる今回の展示作品や、これまでの国内外での多岐にわたる創作・展示活動を振り返りながら、その背景について語っていただきます。

2. アートうちわをつくろう! 8月11日[土]・12日[日]、18日[土]・19日[日]



和紙を折り込み、きれいな色で染め、できた模様を楽しみながらうちわに仕上げるワークショップです。

予約可能、各回定員 20 名、参加費：540 円(入館料別)

イベント予約先 Tel. 0279-24-6585 E-mail. arc@haramuseum.or.jp

交通案内

JR 上越線「渋川駅」より(上越・北陸新幹線利用の場合は「高崎駅」で上越線に乗り換え)伊香保温泉行きバスにて約 15 分、「グリーン牧場前」下車、徒歩 7 分。「渋川駅」よりタクシーで約 10 分。

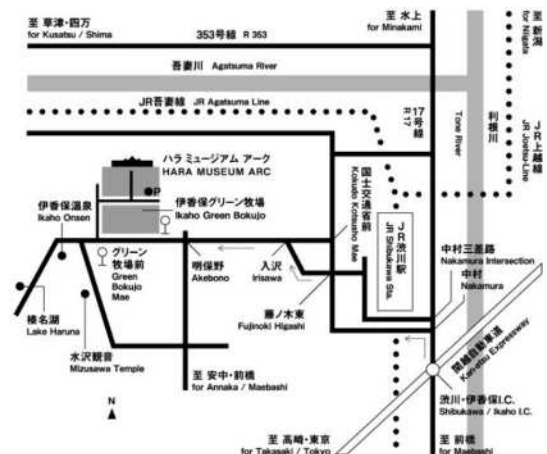
車の場合、関越自動車道「渋川・伊香保 I.C.」より 8km、約 15 分。無料駐車場あり。

【WEB】 <http://www.haramuseum.or.jp>

【mobile】 <http://mobile.haramuseum.or.jp>

【twitter】 <http://twitter.com/HaraMuseumARC>

【BLOG】 <http://www.art-it.asia/u/HaraMuseum/>



取材・図版提供などのお問い合わせ先：ハラ ミュージアム アーク 広報 山川、柳田(担当学芸員 青野)

Tel 0279-24-6585 Fax 0279-24-0449 E-mail press@haramuseum.or.jp